

活動報告書(運営)

報告日付:平成31年4月15日

事業ID:2017460921

事業名:佐賀県唐津市における第三の居場所の運営

団体名:(特)博心館

事業完了日:平成31年3月31日

1.事業内容(実績。700文字以内):

(1)佐賀県唐津市における第三の居場所の運営

(2)日時:2018年7月1日

(3)場所:佐賀県唐津市

(4)参加者:小学校低学年の子どもを中心に30名(内、事業対象世帯10名)(*次年度に向け漸増させる)

(5)内容:「家でも学校でもない第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点には専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する。

2.事業内容詳細:

別紙のとおり

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

1. 拠点利用児童の募集
2. 児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
3. 保護者・地域・行政との関係構築
4. 全国展開に耐える事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1の達成状況:

事業対象児童の目標数10人に対し、当初対象児童は2名だったが期末では7人となった。

一般利用児童数は当初7人から26人となり、現時点での塾の利用者の合計は33名である。

2の達成状況:

学習支援や各種講座等を実施した。食事の提供については、食事提供を必要とする児童が少なく利用回数は少なかった。

3の達成状況:

保護者とは、日々の状況報告等の中で良好な関係構築ができている。また、行政等との関係構築については、日本財団の指導を仰ぎながら実施し、良好であった。

4の達成状況:

地域住民と協力して子ども達を見守り育てることが事業モデルの一目標であるが初年度から住民にこの理念が受け入れられていると考えている。

4.事業実施によって得られた成果:

地域の盆踊りや餅つき大会などのイベントに積極的に参加することなどにより、地域の人々との交流が密になった。子ども達も様々な人と交流する事により、一例をあげると、言動が粗暴で小学校でも問題行動を起こしていた児童が最近では随分と落ち着いてきたなど、子どもたちも変化が出てきたように感じている。

またライオンズクエストのプログラム研修を行い、スタッフのスキルアップができたと感じている。

今後はこのような活動で子ども達の自己肯定感を育てると同時に、体験学習、課外活動、ライオンズクエストなど、児童の非認知能力を高めるプログラムを引き続き行っていき、これらのプログラムが児童にどのような影響を与えているか、適当な検証手法を考えていきたい。

5.成功したこととその要因:

地域ボランティアの協力を得て行っている様々なプログラムにより、保護者から評価を得て、評判がクチコミで広がっており、塾生が増えている。

日本財団の指導により、関係機関とのネットワークが広がり情報連携が密になった。

6.失敗したこととその要因:

事業対象児童が目標数値に達成しなかった。行政と連携し塾の周知募集を行ったのが11月以降となった為と思われる。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

課題: 事業対象児童の募集

対応案: 地元自治体をはじめとする関係機関や地域との連携を密にし、情報を共有する。

子ども達の成長を検証する手法を確立する。

